令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム やまぼうし桜台

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390100261		
法人名	一般社団法人米内地域支援プラザ		
事業所名	グループホーム やまぼうし桜台		
所在地	〒020-0002 盛岡市桜台二丁目18-3		
自己評価作成日	令和5年11月20日	評価結果市町村受理日	令和6年2月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①整理・整頓・清掃
②利用者に寄り添った介護
③協力病院や訪問看護と連携した24時間の医療体制
④畑作業など外作業を取り入れた季節を感じられる生活

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

近隣には中学校や児童センターがあり、同敷地内には法人のデイサービスやサービス付き高齢者住宅が集約され、その中に事業所が位置し、災害時にはそれぞれの事業所が連携し、対応に当たるという構図が出来ている。医療面においても、利用者の通院、受診の負担を考慮し、訪問診療、訪問看護、訪問歯科を利用し医療連携が確保されている。また薬剤師による処方薬の配達や説明、助言などもあり、利用者、家族から、安心感をもって受け止められている。認知症の方に対する支援上の課題など、日々の支援から得た成功事例を事業所全体で共有し、身体拘束廃止の取り組みに反映させている。「まずは試して、さらに検討」と「毎日笑顔が見られるように」を念頭に、全職員利用者に寄り添い、実践に取り組んでいる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	整理・整頓・清掃を基本とし、清潔感のある施設運営をおこないつつ、利用者に寄り添った介護を行う。	社是の「整理・整頓・清掃」は開設当初、代表理事が考え作成したものである。職員は「利用者の人格を尊重し、人としての尊厳の保持に努め、明るく楽しい生活の場を提供する。」との運営方針に基づき、月3回のミーテイングの中で話し合いをし、利用者の“笑顔”を求めながら、日々支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナはようやく落ち着いたように見えるが、以前高齢者がかかった場合のリスクは下がっていない。これまで通り、感染症に注意しながら、まずは家族や近親者との面会時間を確保していきたい。 訪問診療、訪問看護は継続している。	町内会には、法人として加入しているが、職員、利用者共にコロナに罹患した事もあり、地域との交流を控えている。以前は幼稚園児によるクリスマス会でのお遊戯や、中学校の体験学習、地域のボランティア「ひばりコーラス」との交流も出来ていたが、今はそれも控えている。来年度には再開も検討している。毎月発行の法人の広報誌をコンビニや児童センターに配布し、PRに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	やまぼうし通信を月1回発行し、地域に情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は事業所で職員と入居者がコロナ感染したこともあり、その完全な回復までに1か月以上の時間を要した。その経験もあり、今年の開催は縮小している。	法人合同で開催しているが、事業所内でコロナ感染者が出た事もあり、対面での開催が7月に実施された。会議には代表理事（社長）が出席し、各事業所の現状報告をしている。来年度は2ケ月に一回の会議を開催し、内容も見直しながら進めて行く事を検討している。推進会議委員の話し合いの中から意見等を聞き、サービスの向上に活かして行く事も検討している。	事業所の運営や利用者の状況を関係者に理解をして頂くために、書面開催を含め、規定に定めている2ケ月に一回以上の開催を期待したい。合同開催であるならば、各事業所の代表が出席し、取り組みの状況を紹介することで、委員の方々の理解度も深まるものと考えます。持ち方や内容の工夫も必要と考えます。検討をお願いしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の問い合わせがあった場合は可能な限り調査等で協力している。	運営推進会議メンバーに包括支援センターが参加している事もあり、市の情報等は伝えて頂いている。また、市との連絡等は、法人の事務部門が窓口になっている。家族からの依頼を受け、要介護申請は代理として、市と随時連絡を取り合い、助言を頂きながら進めている。	

令和 5 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を通して、具体的な事例を取り上げ、職員間で意見交換を行う場を設けている。	身体拘束廃止の指針は作成してあり、追記として、H30.、4月に修正されている。委員会は3ケ月毎に開催され、メンバーは理事長、各事業所職員1名ずつで構成され、会議録は職員会議で共有を図っている。月3回のミーテイングでは、具体的な事例を取り上げ、職員間で意見交換をしたり、スピーチロックが見られたときには、その都度注意喚起をし、支援に努めている。今年は外部から講師を招き研修を行い、身体拘束に関しての理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行いながら、その関連法の流れを確認し、日頃から虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当者なし。必要に応じて勉強会を行う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取ってもらい、重要事項や契約内容について説明し、納得が得られた上でサインをしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは面会の希望があり、徐々に短時間での直接面会を実施している。10分程度。 12月からはインフルエンザの流行もあり、2月または3月までは面会制限。解除時期は感染状況を岩手県のホームページで確認しながら検討している。	コロナ感染が収まらない状況ではあるが、家族からの要望で、短時間での面会を実施している。家族からの意見や要望は、面会に来所した時や、必需品に関して家族へ電話を掛けた時を利用して聞いている。また利用者一人一人に日頃の生活の様子を写真とコメントでお知らせし、それを見て（着替え、衣替え・パンツ等）の連絡も頂いている。	

令和 5 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部署のミーティングを通してい、必要な改善を行っている。 例　浴室の置き型の手すりの設置（施設がレンタルしている）	年一回理事長との個人面談が実施されており、職員の意見や要望が直接聞ける機会を設けている。また普段の業務の中や、申し送り、月3回のミーテイングを通しても聞いている。意見や要望から、浴槽に手すりを設置したり、トイレの扉を折り戸タイプから引き戸に変え、車椅子対応が可能になった事など、利用者に合わせての提案も多く、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から講師を招いて研修を行ったり、職員のスキルアップに努めている。外部研修にも職員を出したいが、なかなか職員が増えず、派遣できないでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で積極的な交流は控えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安な部分を傾聴しながら、信頼関係の構築に努めている。また、そのことを職員間で共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入居時に介護支援専門員が家族と面談を行い、今抱えている不安や要望を聞き、関係つくりに務めている。		

令和 5 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム　やまぼうし桜台

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者と介護支援専門員が家族との面談や関係機関からの情報を整理し、本人の状態を把握し、入居を決めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の今の能力を見極め、できることを可能な範囲で無理なく行ってもらっている。 例　洗濯物のたたみ方、テーブル拭きなど		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍ではあったが、直接面会を行えたのでよかったと思っている。12月からは面会制限を行うが、リモート面会などを進めながら、家族との関係は継続していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との面会の他には、訪問看護、訪問診療、福祉美容師の方には継続で訪問してもらっている。	コロナ禍で家族との外出や外泊が出来ない状況であるが、親族の葬儀で参列される方もいるが、墓参りを希望される方は少ない。同法人のデイサービスへ出かけ、流しソーメンやスイカ割を楽しむ等、またクリスマス会も一緒に行い、法人内の施設間では交流を行っている。法人所有の「やまぼし農園」に出かけの収穫作業は楽しみとなっている。訪問している福祉美容師や訪問医師、訪問看護師、薬剤師が馴染みとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順の配置など、利用者同士がコミュニケーションを取りやすいように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの提供が終了していても、情報提供の問い合わせがあった場合は対応を行っている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 5 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム　やまぼうし桜台

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設スケジュールはあるが、本人に選択していただき自由に過ごせるように心がけている。様子を見て介助誘導が必要な時には、声掛け誘導し無理強いしないようにしている。	入居の際に、本人及び家族から意向や思いを伺い、把握に努め支援をしている。自分の意向を伝えれる方は2名。他の方は短い言葉のやり取りはできる事もあり、簡単な質問から選択するなど、どうしたいのかの意思疎通はできている。利用者の言葉や思いを職員間で共有し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報提供を参考にしながらも、本人の何気ない会話やニュースで時代を回想してもらい、新し情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が安全に楽しく生活できるよう体調変化や行動について職員間で情報共有し、対応方法をいろいろ試している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前に本人や家族の意向を確認しケアプランを作成するが、施設生活で見えてくる本人の能力や不安な部分には、「まずは試してみる」→「更に検討」し介助方法を変更している。家族や医療機関にも相談しながら進めている。	入居前の利用者の生活状況等をアセスメントをし、暫定プランを作成している。その後全職員でモニタリングをしながら、サービス担当者会議で話し合い、ケアマネジャーが家族の意向や医師の意見を活かしながら利用者の現状に即したプランを作成している。6ケ月毎に見直しをし、必要が生じた時には、随時見直しを図っている。家族からは郵送または来所した時に説明をし、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に小さな気づきや入居者の言動、対応を記載し職員間で情報共有し介助方法を変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時に家族の今後の意向を聞き、今の本人に合った他施設の検討や在宅支援の復帰などの相談に対応している。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 5 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加することはできなかったが、近くの児童センターへの散歩時、児童とあいさつを交わしたり登下校を2階から見守り、天気を眺め季節を感じることができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大部分が訪問診療を月2回利用しているが、専門医の受診が必要な時は、本人・家族に説明し対応を相談している。必要な時は通院介助し結果を家族に報告している。	ほとんどの利用者は、月2回訪問診療で訪れる医師をかかりつけ医としている。専門医の診療が必要な時には、家族対応としているが、都合の付かない時には事業所が対応し、結果は家族に報告をしている。月2回訪問診療と交互に来所する訪問看護師や、2週間毎に来所し、薬の処方説明をしてくれる薬剤師など連携が出来ていて、利用者や家族、職員に安心感を持って受け止められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調変化や気になった小さなことでも施設の看護師に相談しやすい環境にある。受診の必要性や経過観察など職員間で情報共有し観察している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	連携医療機関へ必要な情報提供を行い、随時状態確認を行い退院時の受け入れがスムーズにできるよう配慮している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族面会時に、今後の意向確認を行っている。GH以外の施設や在宅での看取りについて情報提供している。	入居の際本人及び家族に対し、看取りや重度化した場合の対応について説明をし、了承を得ている。以前は看取り対応を行なったが、職員への精神的な負荷が大きく、現在は行っていない。体調が変化し、重度化の方向になって来た段階で家族と話し合いをし、意向を聞きながら医師を交えて看取り対応の施設や病院、在宅での看取り等の情報を提供しながら、家族の選択に任せている。	

令和 5 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師に指導してもらったり、職員が目につきやすい場所にファイルを置いている。急変時にまず行うことを職員間で確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練や防災マニュアルを参考にしながら、全国のニュースなどをみて、施設に置き換え対応を話し合っている。	年2回夜間想定を含めた火災訓練を実施している。夜間の避難訓練のあり方が課題となっていたため、夜間の応援体制の連絡網を作成し訓練を実施した。災害時には、法人の各事業所が応援協力の体制になっている。また事業所は地域住民の避難場所としての受け入れも考えている。備蓄として3日分を用意している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを確保するために、介助時の声掛けや態度に気を付け、本人の意向を大事にするようにしている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねる事のないように、丁寧な言葉掛けや態度に配慮をし、対応している。トイレ誘導も、耳の遠い方には耳の傍で話すよう心掛けたり、動きを見て誘っている。居室内でも見守りが必要と考え、居室の上部分がガラス張りにはっているので、嫌がる方もいたが、今はいなくなった。居室に入室する時にはノックをし、声を掛けてから入室しプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で入居者に選択してもらい、好きなように過ごしてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の遂行があるが、入居者の選択で過ごしてもらっている。必要な時は説明して誘導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	温度感覚がない場合は職員が快適に過ごせるような衣類を選び、「素敵ですね」と言葉をかけている。		

［評価機関 ： 特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会］

令和 5 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム　やまぼうし桜台

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話や料理番組を一緒に見て、何を食べたいかを確認しおやつレクで実施している。入居者にはテーブル拭きやホットプレートでの調理に参加してもらっている。	献立は業者の高齢者向け様に立てたものを利用している。週2回食材のを配送を受け、デイサービスの調理室で3食を調理したものを提供している。利用者からは食べたいものを聞き「おやつレク」に反映させ、一緒に作ったりしている。パン食を週一回、木曜日は麺、日曜日には、ちらし寿司と五目御飯を交互に提供する等、変化をつけながら、食事が楽しみになる様工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事や水分量を確認し、入居者に摂取を勧めている。食事残量を見て本人と提供量の確認をして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回、食後には口腔ケアを行い手の届かない部分を介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を取り時間を見て誘導し、トイレで排泄できるようにしている。夜間の尿失禁を減らすため、巡視時のトイレ誘導を行っている。パッドの種類や寝具についても相談し対応している。	利用者一人一人の排泄状況をチェックし、職員間で共有を図り、時間を見ながら、日中及び夜間もトイレ誘導を行なっている。全員がリハビリパンツ使用で、4名が転倒防止のため、家族の了解を得て人感センサーを利用している。現在の状態が維持出来るよう、レク等で軽い運動を取入れながら、筋力低下予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録を取り職員間で確認し看護師の指導の下、排便コントロールをしている。食事・水分量の確認や体操やおなかをマッサージするなど行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴となっているが、拒否があった時は無理強いをしない。その日の入居者の様子を見て入浴順番を決め安全に気持ちよく入浴できるようにしている。	週2回、月・木の入浴と火・金の入浴となっているが、嫌がる人には無理強いをいないよう柔軟な対応をしている。利用者の様子を見て入浴順番を決め、楽しく入浴が出来るように努め、入浴の時間は職員と利用者のコミュニケーションの図られる場となっている。一人の利用者がバスボードを使用し、入浴がし易いよう個々に合わせた支援をしている。	

令和 5 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム　やまぼうし桜台

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は起きて過ごし、夜間にぐっすり眠れるよう声掛けをしている。眠れない入居者はホールで一定時間過ごしてもらい居室へ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に相談しながら看護師が服薬管理をしている。職員間で本人の状態を確認し、看護師が薬の容量や服薬回数を随時見ながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌唱の時間でその時代背景を懐かしがり、回想の時間となっている。天気が良ければ外に出て季節を肌で感じる機会を作っている。入居者が得意なことをやっていただき他入居者にも喜んでもらう機会となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い時は職員が声をかけて近くに散歩に出かけ花を眺めたりしている。今年は同じ敷地にあるサ高住施設の流しそうめんやスイカ割りに参加した。施設の畑に出かけ野菜の植え方、収穫を行っている。	コロナの罹患者がいた時期もあり、ドライブにも出かける事が出来ない状態であった。天気が良い日には、日向ぼっこや職員の声掛けで事業所周辺を散歩したり、「法人の農園」へ出かけ野菜の収穫を行ったりしている。また同法人のサ高住施設へ出かけ、流しソーメンやスイカ割りを楽しむなど、日々の生活に変化を持たせるよう工夫し、支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人お金を管理している方がいるが使う機会はない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかける手伝いはできるが希望者はいない。家族からハガキが届けば本人に見てもらっている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム やまぼうし桜台

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく過ごしていただくために掃除をきちんと行っている。入居者に聞きながら温度管理を行い時間を見て空気の入れ替えを行っている。 季節を感じられるような壁の装飾を行っている。	共用のホールには壁掛けのテレビがあり、食堂兼テーブルが置かれ、利用者は自分の席に座り、思い思い好きな事を楽しんでいる。壁面には、職員と利用者が一緒に作ったツリーが飾られ、季節感が感じられるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話が合う入居者を隣同士にしたり、空調の場所等を考えながら席を配置している。時々、席順を変えてリフレッシュしたり、新しい関係作りの様子を見ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はすっきりしているが、家族の写真を飾ったり好きな本を並べている。家族が持参した使い慣れた寝具で休んでもらっている。	入居の際に、利用者と家族が一緒に衣類等を整理したり、必需品の持ち込みをしている。居室には壁掛けテレビ、電動ベッド、クローゼット、エアコン、パネルヒーターが備え付けられ、利用者は、寝具類や写真、時計など馴染んだものを持ち込みしている。壁面には、、誕生会に職員に作ってもらった写真入りのカードを飾る等、本人が居心地よく過ごせるように部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には氏名を貼り、トイレにはトイレと大きく表示している。居室は転倒がないように状況を見ながらベッド等の配置を変更している。		